

<第78回調査>

2015年11月30日

【本調査の目的】

2009年6月の第1回調査を皮切りに、(株)外為どっとコムは口座開設者のお客様を対象として、「投資動向等に関するアンケート調査」を毎月定期的を実施していましたが、2010年8月の第15回調査より、その名称を「外為短期投資動向調査(略称:外為短観)」に改めました。本レポートは、同調査の結果に基づき、(株)外為どっとコム総合研究所がその一部を取りまとめるという形で対外的に公表するものです。

近年の外国為替市場において、本邦の外国為替保証金取引への関心が強まっているのは周知の通りですが、その実像を把握するのに必要な統計データ等の整備は、既存のマクロ経済データや金融関連データなどに比べて遅れているのが実情です。今後こうした調査を継続的に実施することで、時系列で比較した個人投資家層の相場感の変化や投資家属性別の投資動向の特徴などを精査し、当社の調査研究活動の深化につなげるとともに、その一部を社会に還元することが、本調査の目的です。

また、本調査におきましては、国内外の市場参加者が注目する各種イベント前後の時期に、不定期のアンケート調査の結果も公表いたします。定点観測の調査結果と合わせて、ご参考にして頂ければ幸いです。

【調査実施期間】

2015年11月17日(火)13:00~2015年11月24日(火)13:00
※毎月中旬から下旬にかけての1週間を調査期間としています。

【調査対象】

(株)外為どっとコムの『外貨ネクストネオ』に口座を開設のお客様層

【調査方法】

(株)外為どっとコムの口座開設者にメールでアンケート回答URLを送付。
今回の有効回答数は1037件。
※必要項目を全て入力して回答して頂いたお客様を「有効回答数」としました。

本レポートは、投資判断の参考となる情報の提供を目的としたものであり、投資勧誘を目的として提供するものではありません。投資方針や時期選択等の最終決定はご自身で判断されますようお願いいたします。また、本レポートに記載された意見や予測等は、今後予告なしに変更されることがございます。なお、本レポートにより利用者の皆様に生じたいかなる損害についても、株式会社外為どっとコム総合研究所ならびに株式会社外為どっとコムは一切の責任を負いかねますことをご了承願います。

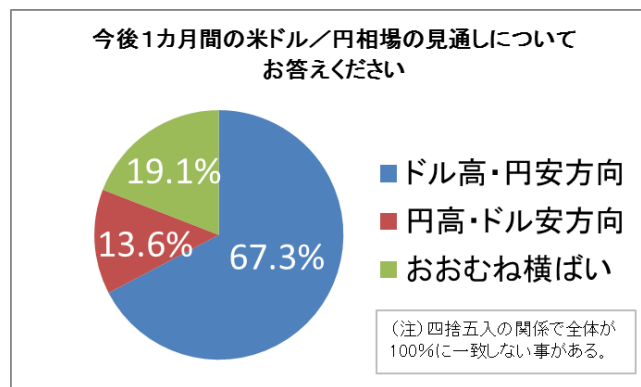
Copyright©2015 Gaitame.com Research Institute Ltd. All Rights Reserved. www.gaitamesk.com

【第78回調査結果略報:「ドル強気・ユーロ弱気」が明確に】

問1: 今後1カ月間の米ドル/円相場の見通しについてお答えください

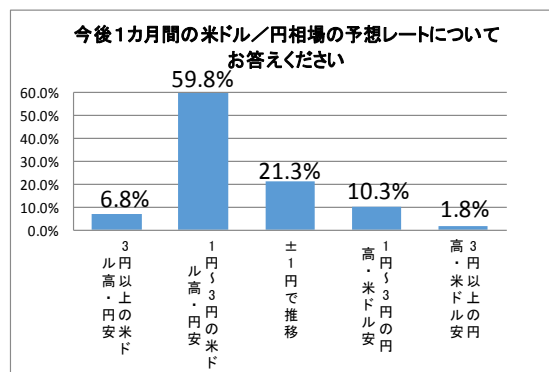
「今後1カ月間の米ドル/円相場の見通し」については、「ドル高・円安方向」と答えた割合が67.3%であったのに対し「円高・ドル安方向」と答えた割合は13.6%であった。この結果「米ドル/円予想DI」は+53.7%ポイントとなり、前月(+4.1%ポイント)から大幅にプラス幅を拡大した。調査期間中の米ドル/円相場はトルコが領空侵犯したロシア戦闘機を撃墜した事で中東情勢のリスクを嫌気した売りなどがあったものの、122円台半ばでは買い支えられた。米国の12月利上げがほぼ織り込まれる中、ドルの下げは限定的とみる向きが多く、実際に下げた場合も底堅さを見せた事がこうした結果に繋がったと考えられる。

※過去の米ドル円予想DIの推移はP6-7に掲載。



問2: 今後1カ月間の米ドル/円相場の予想レートについてお答えください

「今後1カ月間の米ドル/円相場の予想レート」については、「1円～3円の米ドル高・円安」が59.8%と最も多く、「±1円で推移」が21.3%、「1円～3円の円高・米ドル安」と答えた割合が10.3%と続いた。「3円以上の米ドル高・円安」は6.8%、「3円以上の円高・米ドル安」は1.8%であった。ヒストグラムの形状は「1円～3円の米ドル高・円安」が突出する形となっており、7割近くが「ドル高・円安方向」と回答した問1の結果と整合的である。本問に対する回答の約8割が「±0.0円～+3円」に収まっており、調査期間中の米ドル/円相場が123.00円を挟んで推移していた事から、FX投資家の想定レンジは122-126円前後と推測できる。



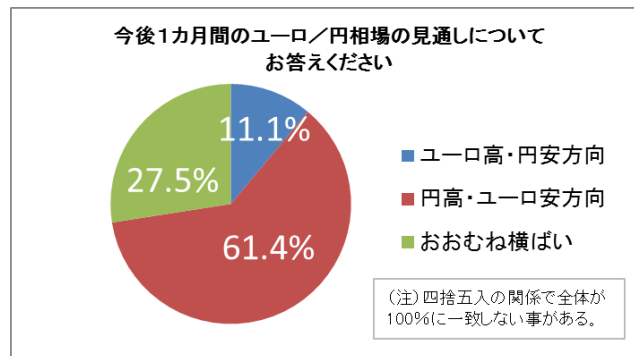
本レポートは、投資判断の参考となる情報の提供を目的としたものであり、投資勧誘を目的として提供するものではありません。投資方針や時期選択等の最終決定はご自身で判断されますようお願いいたします。また、本レポートに記載された意見や予測等は、今後予告なしに変更されることがございます。なお、本レポートにより利用者の皆様に生じたいかなる損害についても、株式会社外為どっとコム総合研究所ならびに株式会社外為どっとコムは一切の責任を負いかねますことをご了承願います。

Copyright©2015 Gaitame.com Research Institute Ltd. All Rights Reserved. www.gaitamesk.com

問3: 今後1カ月間のユーロ/円相場の見通しについてお答えください

「今後1カ月間のユーロ/円相場の見通し」については、「ユーロ高・円安方向」と答えた割合が11.1%であったのに対し、「円高・ユーロ安方向」と答えた割合が61.4%であった。この結果、**ユーロ/円予想DIは-50.3ポイント**と、前回調査(-0.8%ポイント)からはマイナス幅が大幅に拡大した。調査期間中のユーロ/円は、欧州中銀(ECB)の12月追加緩和の思惑の中でユーロ売りが強く、132.20円台から130.20円前後まで値を下げた。FX投資家においては、ECBが12月の理事会を行った後もユーロ安が続くと見る向きが多い模様だ。

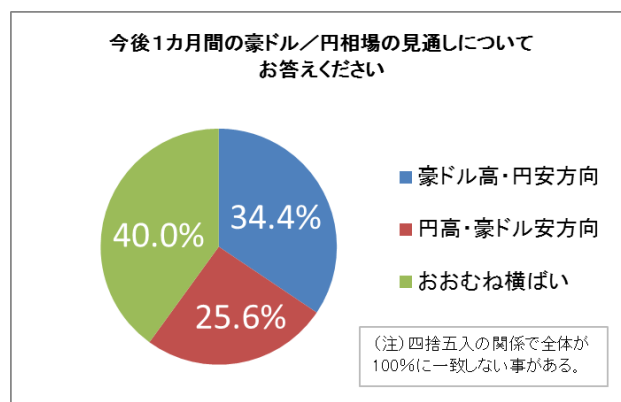
※過去のユーロ円予想DIの推移はP6-7に掲載。



問4: 今後1カ月間の豪ドル/円相場の見通しについてお答えください

「今後1カ月間の豪ドル/円相場の見通し」については、「豪ドル高・円安方向」と答えた割合が34.4%であったのに対し、「円高・豪ドル安方向」と答えた割合は25.6%であった。この結果「**豪ドル/円予想DIは+8.8ポイント**」となり、先月に続いてプラスDIとなった。調査期間中の豪ドル/円相場はユーロが大きく値を下げる中でユーロ/豪ドル主導で豪ドル高が進行した。豪中銀(RBA)の豪ドル高牽制姿勢が弱まった事、スティーブンスRBA総裁も「金利の引き下げは以前ほど刺激効果がない」などと発言(24日)するなど、追加緩和に対して積極性が薄れた事などが豪ドル買い要因となって、対ユーロでの豪ドル買いが加速。対円でも豪ドル買いが強まる原因となった。

※過去の豪ドル円予想DIの推移はP6-7に掲載。

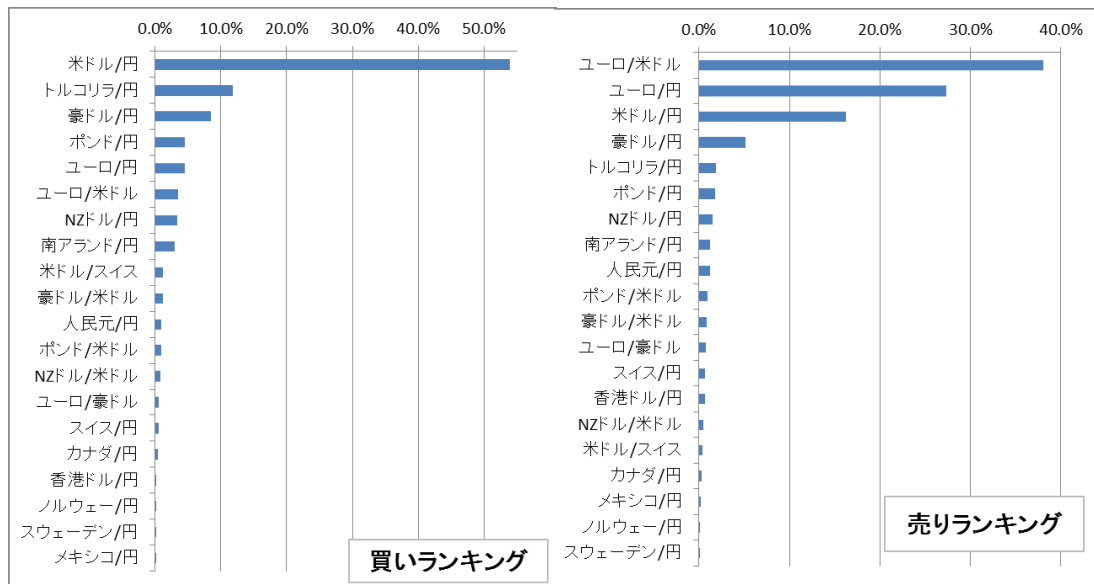


本レポートは、投資判断の参考となる情報の提供を目的としたものであり、投資勧誘を目的として提供するものではありません。投資方針や時期選択等の最終決定はご自身で判断されますようお願いいたします。また、本レポートに記載された意見や予測等は、今後予告なしに変更されることがございます。なお、本レポートにより利用者の皆様に生じたいかなる損害についても、株式会社外為どっとコム総合研究所ならびに株式会社外為どっとコムは一切の責任を負いかねますことをご了承願います。

Copyright©2015 Gaitame.com Research Institute Ltd. All Rights Reserved. www.gaitamesk.com

問5: 今後、注目の通貨ペアについてお答えください

「今後注目している通貨ペア」について尋ねたところ、「買い」で注目の通貨ペアは、米ドル/円が54.0%の回答割合を集めて第1位をキープした。以下、2位トルコリラ/円(11.9%)、3位豪ドル/円(8.5%)、4位ポンド/円(4.5%)、5位ユーロ/円(4.4%)、と続いた。一方、「売り」で注目の通貨ペアは、1位ユーロ/米ドル(38.1%)、2位ユーロ/円(27.3%)、3位米ドル/円(16.2%)、4位豪ドル/円(5.1%)、5位トルコリラ/円(1.9%)となった。「買い」で注目の通貨ペアについては、米ドル/円が回答割合を前月の30.0%から大幅に増やす形で38回連続で1位となった。2位のトルコリラ/円、3位の豪ドル/円は先月から順位が横ばいとなったが、ドル/円への注目が高かった結果、回答割合は低下している。一方、売りで注目の通貨ペアは欧州中銀(ECB)の12月追加緩和観測が強く意識される中でユーロ売りへの関心が高く、ユーロ/米ドル、ユーロ/円が1位と2位を占める結果となった。

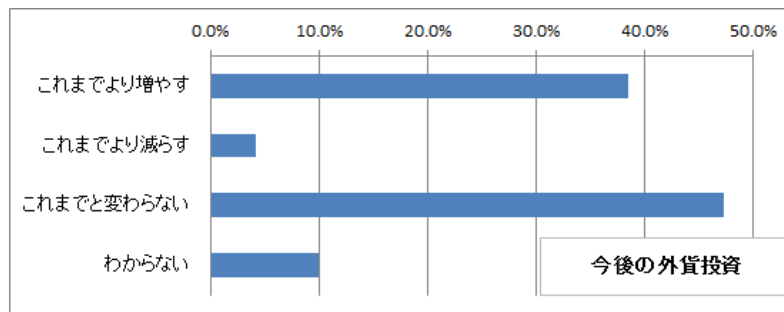


本レポートは、投資判断の参考となる情報の提供を目的としたものであり、投資勧誘を目的として提供するものではありません。投資方針や時期選択等の最終決定はご自身で判断されますようお願いいたします。また、本レポートに記載された意見や予測等は、今後予告なしに変更されることがございます。なお、本レポートにより利用者の皆様に生じたいかなる損害についても、株式会社外為どっとコム総合研究所ならびに株式会社外為どっとコムは一切の責任を負いかねますことをご了承願います。

Copyright©2015 Gaitame.com Research Institute Ltd. All Rights Reserved. www.gaitamesk.com

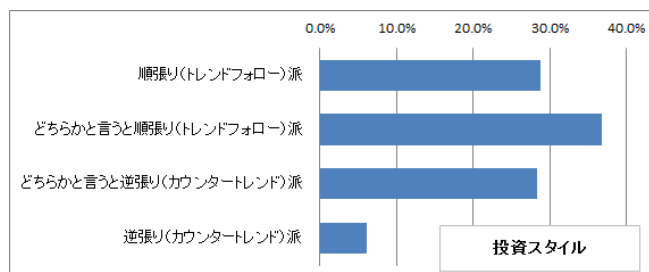
問6: 今後の外貨投資(FX、外貨預金、外貨投信など)の方針について最も当てはまるものは何ですか？(ひとつだけ)

今回の特別質問項目として、「今後の外貨投資(FX、外貨預金、外貨投信など)の方針について最も当てはまるものは何ですか？(ひとつだけ)」と尋ねたところ、「これまでと変わらない」が47.3%と最も多く、次いで「これまでより増やす(38.5%)」、「わからない(10.0%)」、「これまでより減らす(4.2%)」と、現状維持派と増やす派で二分する形となった。自由回答欄を見ると、据え置き派はあくまで無理せずマイペース継続する方針を掲げる声が目立った。また、勉強中のため、資金を増やさず様子を見たいという声も散見された。一方、増やすとの意向を示した層については「徐々にFXに慣れてきたので」と「資産を増やすため」「楽しいから」などとのコメントが並んだ。他方、減らすとの方針を示した層からは、損失が出たことを嫌気する声が散見された。



問7: あなたのFX投資のスタイルは、いわゆる「順張り」「逆張り」のどちらでしょうか(ひとつだけ)

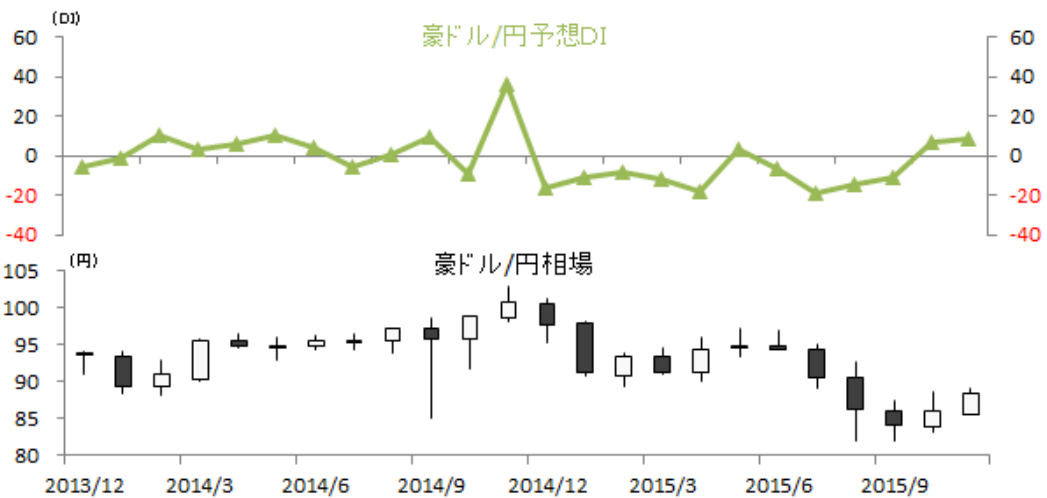
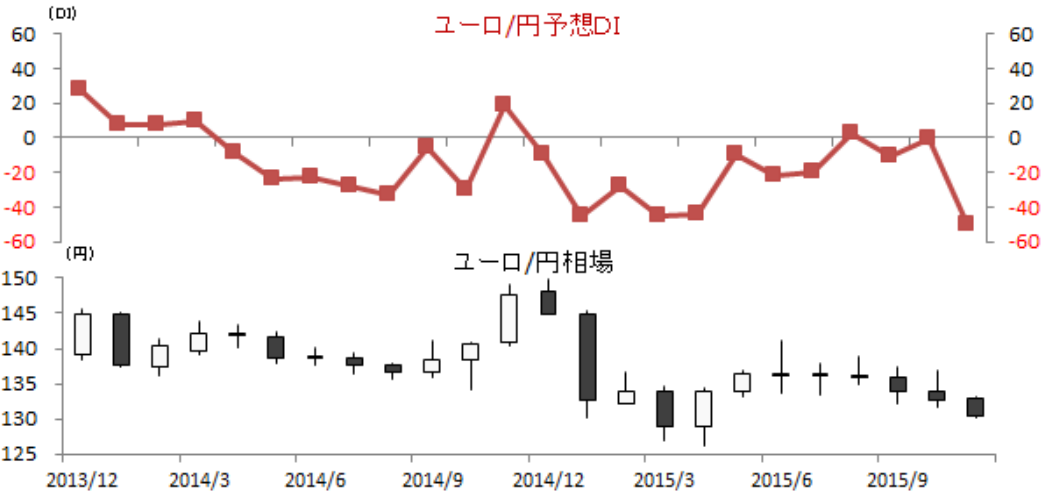
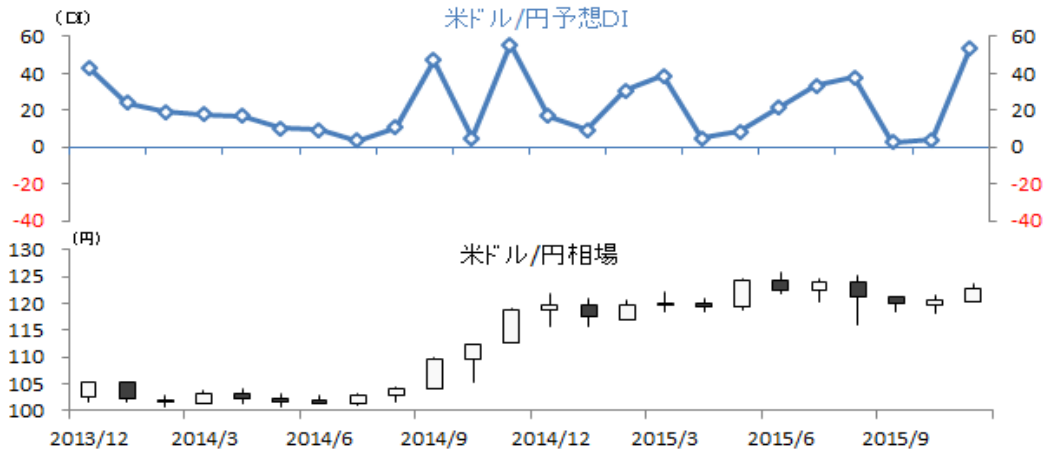
「あなたのFX投資のスタイルは、いわゆる「順張り」「逆張り」のどちらでしょうか(ひとつだけ)」と重ねて尋ねたところ、「どちらかと言うと順張り(トレンドフォロー)派」が36.7%と最も多かった。次いで「順張り派(28.8%)」、「どちらかと言うと逆張り(カウンタートレンド)派(28.4%)」とほぼ拮抗、その後ろに「逆張り派(6.1%)」と続いており、6割を超えるFX投資家が順張り派である様子が窺えた。自由回答欄において、順張り派からは「(順張りの方が)分かりやすい」「逆張りはギャンブルだと思う、怖い」と、手堅さを求めた声がかかれた一方、逆張り派からは「大きな利益を狙える」「こまめに安いときに買って、上がらなければ我慢して長期保有」など大きなチャンスを長い目でつかもうとする方針が見え隠れしており、取引方針の違いが明確に表れた格好だ。なお、この結果は前年同時期に行われた同じ調査とほぼ同様の結果(日銀の追加緩和直後)となっている。FX投資家の投資スタイルと相場変動にはあまり関連がないようだ。



本レポートは、投資判断の参考となる情報の提供を目的としたものであり、投資勧誘を目的として提供するものではありません。投資方針や時期選択等の最終決定はご自身で判断されますようお願いいたします。また、本レポートに記載された意見や予測等は、今後予告なしに変更されることがございます。なお、本レポートにより利用者の皆様に生じたいかなる損害についても、株式会社外為どっとコム総合研究所ならびに株式会社外為どっとコムは一切の責任を負いかねますことをご了承願います。

Copyright©2015 Gaitame.com Research Institute Ltd. All Rights Reserved. www.gaitamesk.com

【付表:主要3通貨ペア予想DIと足の推移】



本レポートは、投資判断の参考となる情報の提供を目的としたものであり、投資勧誘を目的として提供するものではありません。投資方針や時期選択等の最終決定はご自身で判断されますようお願いいたします。また、本レポートに記載された意見や予測等は、今後予告なしに変更されることがございます。なお、本レポートにより利用者の皆様に生じたいかなる損害についても、株式会社外為どっとコム総合研究所ならびに株式会社外為どっとコムは一切の責任を負いかねますことをご了承願います。

【今後の調査実施計画及び公表方針】

本調査も第78回目となりました。調査開始から6年以上が経過し、データの蓄積が進んできました。今後については、毎月定点観測で実施する調査結果を基に、予想DIの時系列比較から見出せるFX投資家の相場観の変化やその傾向などのほか、中長期的な視点に基づいたFX投資家の投資スタイルの変化などの考察も進めて行きたいと考えています。

なお、毎月の本調査においては、公表扱いとしている質問項目及び回答結果の他に、「投資家の属性」、「取引頻度」、「取引規模」、「取引時間帯」、「投資選好」など、投資家実態を把握するために必要な各種の質問項目も設けて集計しています。それらの回答結果を用いた投資家の実態報告や属性別のクロス・セクション分析等については、当研究所が1年に1回、毎年中央以降に公表する「外為白書」で紹介する予定です。

【付表：主要3通貨ペア予想DIの推移】

		米ドル/円			ユーロ/円			豪ドル/円		
		米ドル高	米ドル安	DI	ユーロ高	ユーロ安	DI	豪ドル高	豪ドル安	DI
2013年	12月	59.5	16.1	43.4	48.2	20.7	27.5	27.3	32.8	-5.5
2014年	1月	47.2	23.1	24.1	37.2	29.7	7.5	28.1	29.4	-1.3
	2月	41.7	22.5	19.2	35.3	28.2	7.1	36.5	26.3	10.2
	3月	41.9	24.0	17.9	38.7	29.5	9.2	34.8	31.5	3.3
	4月	41.4	24.6	16.8	25.7	34.5	-8.8	35.4	29.5	5.9
	5月	33.9	23.5	10.4	19.7	44.0	-24.3	34.2	24.0	10.2
	6月	31.1	21.7	9.4	20.1	43.1	-23.0	30.4	26.0	4.4
	7月	27.9	24.4	3.5	17.8	45.8	-28.0	26.7	32.3	-5.6
	8月	32.6	21.8	10.8	14.7	47.9	-33.2	27.8	27.7	0.1
	9月	64.8	17.6	47.2	28.0	33.2	-5.2	36.0	26.5	9.5
	10月	39.4	34.4	5.0	18.3	47.8	-29.5	27.1	36.1	-9.0
	11月	70.0	14.2	55.8	43.0	24.1	18.9	54.0	18.4	35.6
	12月	48.9	32.0	16.9	28.8	38.2	-9.4	26.9	43.4	-16.5
2015年	1月	39.3	29.7	9.6	15.1	60.6	-45.5	26.2	37.5	-11.3
	2月	46.8	16.1	30.7	19.7	47.5	-27.8	26.4	34.8	-8.4
	3月	52.3	13.6	38.7	15.2	60.5	-45.3	21.8	33.9	-12.1
	4月	31.4	26.3	5.1	15.1	59.0	-43.9	23.4	41.9	-18.5
	5月	29.1	20.5	8.6	31.0	40.4	-9.4	32.2	29.1	3.1
	6月	43.5	21.9	21.6	25.4	47.2	-21.8	24.3	31.3	-7.0
	7月	49.1	15.5	33.6	23.6	43.7	-20.1	22.8	41.7	-18.9
	8月	51.1	13.1	38.0	30.9	28.8	2.1	24.1	38.5	-14.4
	9月	37.1	34.5	2.6	24.9	35.8	-10.9	29.9	40.7	-10.8
	10月	30.3	26.2	4.1	30.3	31.1	-0.8	39.6	33.0	6.6
	11月	67.3	13.6	53.7	11.1	61.4	-50.3	34.4	25.6	8.8

本レポートは、投資判断の参考となる情報の提供を目的としたものであり、投資勧誘を目的として提供するものではありません。投資方針や時期選択等の最終決定はご自身で判断されますようお願いいたします。また、本レポートに記載された意見や予測等は、今後予告なしに変更されることがございます。なお、本レポートにより利用者の皆様に生じたいかなる損害についても、株式会社外為どっとコム総合研究所ならびに株式会社外為どっとコムは一切の責任を負いかねますことをご了承願います。

Copyright©2015 Gaitame.com Research Institute Ltd. All Rights Reserved. www.gaitamesk.com